

◆(淵上陽一君) ありがとうございます。

県民の生命、財産を守ることは、行政が担う最重要の任務でありますので、御苦勞の多いことは存じますが、引き続き全力で取り組んでいただきますようお願いを申し上げます。

次に、交通安全対策についてお尋ねいたします。

先月末の発表によりますと、県内において昨年1年間に交通事故で亡くなられた方は103人と、この50年間で最も少なかったとのことであり、交通安全確保に対する県警の御努力に厚く感謝を申し上げます。

一方、死者の半数は高齢者であり、特に75歳以上の死者が7割、35人を占めていることから、高齢者を交通事故から守る対策が急がれます。

この対策として最も有効なものが信号機であり、交通安全を確保するための信号機設置は、いつの時代も県民の切実な願いであります。が、財政難の影響はここにも及んでおり、県警としても御苦勞されていることと拝察いたします。

さて、最近山鹿市内で起きている交通事故の特徴として、信号と信号の間にある路地からの出会い頭の事故が挙げられております。

この事故は、信号を通過した自動車が、速度落とせの標識があるにもかかわらず、次の信号を続けて通り抜けようとして、スピードを上げ過ぎることが原因と指摘されております。

こうした事故を防ぐために、手押し信号機の設置要望が出されておりますが、予算と優先順位の関係上、実現までにはかなりの時間がかかるということでございます。

そこで、信号機が設置されるまでの間、自動車の速度を落とさせるために、大型スーパーの駐車場などにある減速用のでこぼこを設ける、あるいは従来標識より減速させる効果の高い路上ペイントを施すといった代替策は考えられないものか、県内でこれまでにそのような例があるかどうか、お伺いいたします。

続きまして、交通安全にかかわる渋滞緩和策についてお尋ねをいたします。

山鹿市内を東西に貫く国道325号線は、短い区間に信号機が連続するため、朝夕の通勤時と観光客の出入りが集中する週末、休日には激しい渋滞が発生し、いらいらしたドライバーによる乱暴な運転によって、歩行者の道路横断に危険を及ぼしかねない状況も見受けられます。

県警は、県内各地で渋滞対策に取り組んでおられることと存じますが、この国道325号線のような渋滞状況を緩和するためにはどのような対策があるか、お尋ねいたします。

以上2点について、警察本部長にお伺いいたします。

〔警察本部長横内泉君登壇〕